

お薬の飲ませ方の工夫



①ペースト状にして飲ませる（歯の生えていない新生児向け）

薬を容器に移し、少量の水またはぬるま湯を少しずつ加えペースト状・だんご状に練ります。味のわかりにくい、ほおの内側やあごの奥の方に塗布し、その後すぐ、水やぬるま湯などを飲ませて流し込みます。（舌の上は味を感じてしまうのでのせないよう注意。）

②哺乳瓶を使用する

少量の水またはぬるま湯などに溶かした薬を、乳首に入れて吸引させ、乳首に薬が残らないように水やぬるま湯などを追加して飲ませます。ただし水が多すぎるとおなかいっぱいになり飲みきれなくなることがあるため溶かす量には気を付けましょう。

③スプーンを用いる（離乳食を食べ始めスプーンに慣れてきた乳幼児向け）

スプーンの上で薬を少量の水またはぬるま湯などに溶いて、まず1回ゴクンと飲ませ、その後すぐに水やジュースなどを飲ませます。最初に多めの水で溶いてしまうと飲み終わる前に薬の苦みが出たり、量が多くて飲みきれず薬を飲み残す可能性があるため注意が必要です。

④スポイトを用いる

誤嚥（ごえん）に気をつけて口のわきから、ほおの内側に少量ずつたらしめて飲ませます。この時も舌の上に乗せると味がして嫌がる場合があるため注意が必要です。

⑤オブラート、服薬補助ゼリーに包む。

⑥食べ物に混ぜて飲ませる

ジャム、ゼリー、ヨーグルト、プリンなど、子どもが好きな食べ物に混ぜて飲ませることもできます。甘いものや少し冷たいものが、飲ませやすいようです。ただし、量は子どもが食べきれぬ量にします。また、薬によっては混ぜると苦みが増すものがあるので、何となら混ぜていいのか、事前に薬剤師に確認しておきましょう。

服用時間

- ◎お腹がいっぱいで飲んでくれなかったり、食べ物と一緒に吐いてしまうことがあるので、特に医師からの指示がない場合、薬の服用は授乳・食事の前でも差し支えはありません。
- ◎1日3回の場合は、朝・昼・夕と大体5～6時間空けるとよいでしょう。
- ◎服用時に寝ているときは無理に起こさず、その後時間をずらして飲ませましょう。

Q：お薬をミルクに混ぜてもいいですか？

A：ミルク・母乳はこの時期の小児の主な栄養源です。薬を混ぜることで味が変わり、ミルクを嫌いになったら困るので、避けた方が良いでしょう。